

直前東大地理発展演習

【1 回目】



問題

【1】

解答例

設問 A

- (1) Xの西部は沖合いを寒流のベンゲラ海流が流れる影響で、緯度の割に低温・少雨となる地域が赤道近くまで広がっているが、東部はそうならない。また、Yの西部は偏西風が優勢で海洋性気候が出現し、暖流の北大西洋海流の影響もあり、冬季に極寒となる地域は狭いが、東部は冬季に大陸性気候が出現して極寒となる地域が広い。(149字)
- (2) 都市P－エ、都市Q－ア、都市R－イ、都市S－ウ
- (3) 偏西風と暖流の影響で緯度の割に温和な都市Qより、内陸に位置する都市Pは気温の年較差が大きい。中緯度高圧帯の影響で夏に乾燥する都市Rと異なり、都市Pは一定の降水がある。より隔海度が大きい都市Sより、都市Pは気温の年較差は小さく、降水が多い。(119字)
- (4) 人口が多いS国では国内需要が大きく、生産量が多いが余剰は乏しい。一方、S国の約4分の1の人口規模のP国は、そうではない。(60字)
- (5) Q国の方が国土面積が広い上、平野・平原の割合も高く、小麦栽培面積が広い。また、年中温湿で湿潤な気候が出現し、夏季に乾燥するR国より土地生産性も高い。このため、Q国は小麦の世界有数の生産国・輸出国となり、R国は世界有数の輸入国となっている。(119字)

設問 B

夏季に海から北海道の東部地域へ吹く風が、東北日本の太平洋岸を流れる寒流の親潮により冷却されて低温風となる上、海霧を発生させる。このため、低温と日射不足が生じて稲作が困難となる。(88字)

解説

《自然環境》

東大地理の自然環境に関する出題は、気候と気候因子の相関性、気候と産業の相関性などが頻出テーマとなっている。これを機会に、本問で取りあげた事例以外についても、再度確認しておくように心掛けてほしい。

設問 A.

図1－1は、旧ソ連の気候学者アリソフ（1891～1972年）によって考案された気候区分を示したものである。ドイツの気候学者ケッペンによって考案された気候区分が植生分布の特色に基づいた結果的気候区分であるのに対し、アリソフの気候区分は各地の気候の特性は基本的に前線帯の季節的移動に伴う卓越気団の種類によって規定されるという考えに基づいた成因的気候区分である。参考までに述べると、図1－1のaは赤道気団地帯、bは赤道季節風地帯、cは熱帯気団地帯、dは亜熱帯気団地帯、eは中緯度気団地帯、fは亜極気団地帯、gは極気団地帯を示している。

(1).

地球上における単位面積当たりの受熱量は、緯度によって変化し、低緯度地域で多く、高緯度地域では少ない。このため、基本的に地球上において観察される気候の特色は緯度の変化に

伴い異なるものとなり、その結果、気候帯は緯線にほぼ並行して分布することになる。しかし、図1-1を見ると、アフリカ大陸の南半球側地域(X)において気候帯c、ユーラシア大陸(Y)において気候帯eの出現する緯度帯が東部と西部で大きく異なるものとなっている。本問では、このような現象が引き起こされる理由を、「海洋性」、「極寒」、「少雨」、「大陸性」という4つの指定語句を用いて記述説明することを求めた。

もちろん、アフリカ大陸の南半球側地域(X)において気候帯cの出現する緯度帯が東部と西部で大きく異なっている理由としては、この地域の西海岸を寒流のベンゲラ海流が流れており、その影響で緯度の割に低温・少雨となる地域が赤道近くまで広がっているため、東部には存在の認められない海岸砂漠が形成されていることを指摘せねばならない。

また、ユーラシア大陸(Y)において気候帯eの出現する緯度帯が東部と西部で大きく異なっている理由としては、中緯度地帯の大陸西岸地域は偏西風が優勢なために比熱の大きい海洋の影響を強く受けて緯度の割に冬季でも比較的温暖な気候が出現する一方で、大陸東岸地域はそうでなく、冬季は比熱の小さい大陸から吹く低温な季節風(モンスーン)の影響を強く受けて緯度の割に比較的寒冷な気候が出現することを指摘せねばならない。

(2)・(3).

図1-1中の、ほぼ北緯40～50°に位置する4都市(P～S)の気候の特色を示した図1-2の雨温図を判別するとともに、その判断根拠を述べることを求めた。

雨温図などの気候データの判別問題では、気温の年較差と降水パターンの2点に注目することがポイントとなる。気温の年較差は、(i)緯度、(ii)隔海度、(iii)中緯度地方では大陸東岸と西岸の違いによって、その大小がおおよそ決定される。

(i)については、季節変化の不明瞭な低緯度地方で気温の年較差が小さく、そうではない高緯度地方で気温の年較差が大きくなる。(ii)については、隔海度の小さい沿海部は比熱が大きくて温度変化しにくい海洋の影響で気温の年較差が小さく、隔海度の大きい内陸部は比熱が小さくて温度変化しやすい大陸の影響で気温の年較差が大きくなる。(iii)については、中緯度地方の西岸は冬季に海洋からの偏西風の影響を受けるため、またユーラシア大陸の西岸は、暖流の北大西海流の影響を受けるため、緯度の割に比較的温暖となって気温の年較差が小さくなる。これに対して、東岸は冬季に大陸からの低温な季節風の影響を受けるために緯度の割に比較的寒冷となって気温の年較差が大きくなる。

また、降水パターンは、①年間通して赤道低圧帯の支配を受ける赤道直下で年中多雨、②年間通して中緯度(亜熱帯)高圧帯の支配を受ける回帰線付近で年中少雨となり、③両者の間に位置する地域では、太陽回帰に伴って赤道低圧帯や中緯度高圧帯の出現域が季節変化する影響で夏雨型(冬に少雨)となる。さらに、中緯度地方では、④冬季に海洋からの偏西風の影響を受ける大陸西岸地域が非夏雨型(年中一定の降水、または冬雨型)、⑤冬季に季節風の影響を強く受ける大陸東岸地域が夏雨型(冬に少雨)となり、⑥両者の間に大山脈の存在や隔海度の大きさが原因となって水蒸気供給が遮断されるために年中少雨となる地域が出現する。

これらの点に注目すれば、年中少雨なウが都市S、残ったア・イ・エの中で最も気温の年較差の大きいエが都市Pの気候の特色を示していると判断できる。ア・イはヨーロッパに位置する都市Q・Rの気候の特色を示しているわけだが、イの方が最暖月・最寒月いずれの気温もより高温である。また、アが年中一定の降水があるのに対して、イは冬雨型(夏に少雨)となっている。

よって、アが年中偏西風の影響を受けている都市Q、イが冬季は偏西風の影響により降水があるものの、夏季は中緯度高圧帯の支配下に入って乾季となる地域に位置する都市Rの気候の特色を示すものと判断できる。

参考までに述べると、図1-1に示された都市Pはシカゴ、都市Qはパリ、都市Rはローマ、都市Sはウルムチを示している。

(4).

図1-1に示された4都市(P～S)が位置する4カ国の人口密度と小麦の生産量、輸出量、輸入量を示した表1-1に関する出題で、ア群の2国(図1-1に示された都市Pが位置するP国(アメリカ合衆国)と都市Sが位置するS国(中国))の国土面積に大きな違いが認められないにもかかわらず、小麦の生産量はS国の方が多く、小麦の輸出量はP国の方が多くなっている背景を記述説明することを求めた。

解答のポイントは、人口密度(人/㎢)が「総人口(人)÷国土面積(㎢)」で算出されることに注目することである。つまり、P国(アメリカ合衆国)とS国(中国)の国土面積に大きな違いが認められないにもかかわらず、表1-1に示された両国の人口密度に差異が生じているのは、両国の総人口に違いがあることに起因しており、S国(中国)の人口規模はP国(アメリカ合衆国)の約4倍となっているという事実を把握できれば、容易に回答できる。総人口が13.8億人(2012年、ホンコン・マカオ・台湾を含まない)と世界最大の人口大国となっているS国(中国)では、経済成長に伴う生活水準の上昇もあり、小麦に対する国内需要が多いため、生産量が多いものの、余剰は乏しく、輸出は低調である。しかし、総人口が3.2億人(2012年)のP国(アメリカ合衆国)では、国内需要と比べて小麦の生産量が多いため、大量の余剰が生じており、輸出が活発に行われているのである。

(5).

(4)に続く表1-1に関する出題で、イ群の2国(図1-1に示された都市Qが位置するQ国(フランス)と都市Rが位置するR国(イタリア))の人口規模に大きな違いが認められないにもかかわらず、両国の小麦の生産量、輸出量、輸入量に大きな違いが生じている理由を、両国の自然環境の観点から記述説明することを求めた。

(4)と同様に、解答のポイントは、人口密度(人/㎢)が「総人口(人)÷国土面積(㎢)」で算出されることに注目することにある。つまりQ国(フランス)とR国(イタリア)の人口規模に大きな違いが認められないにもかかわらず、表1-1に示された両国の人口密度に差異が生じているのは、両国の国土面積に違いがあることに起因しており、Q国(フランス)の国土面積は、R国(イタリア)の約1.8倍となっているという事実を把握できれば、容易に解答できる。国土面積が55.2万㎢と、R国(イタリア)の30.1万㎢よりも1.8倍広いQ国(フランス)の国土には、小麦の栽培に適した広大な平野・平原が広がっている上、年中温和で湿潤な気候も出現している。このため、Q国(フランス)は、EU(ヨーロッパ連合)最大の小麦の生産・輸出国となっている。

一方、国土の大部分がアルプス=ヒマラヤ造山帯に属して山がちで平野に乏しい上、夏季に乾季となる地中海性気候区(Cs)の出現するR国(イタリア)は、冬季の降水を利用して小麦の栽培は行われているものの、Q国(フランス)のように小麦の栽培に適しているとは言えない。このため、小麦の生産量が国内需要を満たすことができず、日本とともに先進諸国の中

では最大の小麦輸入国の1つとなっている。

設問B.

日本における稲作の北限線を示した図1－3から、北海道の東部に位置する釧路・根室一帯で稲作が困難であることがわかる。これは、三陸海岸などで「やませ」と呼ばれるものと類似した現象がこの地域で発生していることに起因している。

「やませ」は、梅雨頃から夏季にかけて、オホーツク海上に発達するオホーツク海高気圧から吹く風が、東北日本の太平洋沿岸を南流する寒流の親潮（千島海流）によって冷却されて冷涼風となるとともに、含有されていた水蒸気が冷却されて海霧を生じさせたものである。これが東北日本の太平洋側地域に到達すると、気温の低下や日照時間の減少が引き起こされて冷害が誘発される。しかし、「やませ」は奥羽山脈などの脊梁山脈を越えるとフェーン現象を引き起こすため、日本海側では日照時間の増加と気温の上昇を引き起こす。

このように、東北地方では、「やませ」の影響で「出羽（今日の山形県と秋田県にほぼ相当）は豊作、陸奥（今日の福島県、宮城県、岩手県、青森県にほぼ相当）は凶作」と言われる現象が頻発するのである。また、稲の耐寒品種の開発や寒冷地稲作技術が発達して日本における稲作限界が北進した今日も、「やませ」と類似した現象が頻発する北海道東部の釧路・根室一帯では、稲作を行うことが困難な状況となっている。

【配点の目安】（配点 33 点）

設問A

(1)（8 点）※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

< X について >

① X の西部は沖合いを寒流のベンゲラ海流が流れる … 1 点

②（①の影響で）緯度の割に低温・少雨となる地域が赤道近くまで広がっている … 1 点

※西部は（海岸）砂漠が形成されていることを指摘しても可。

③東部はそうならない … 1 点

※西部と異なり、気候帯 c の広がりが小さいことがわかれば可。

< Y について >

④ Y の西部は偏西風が優勢で海洋性気候が出現 … 1 点

暖流の北大西洋海流の影響 … 1 点

⑤（④の影響で）冬季に極寒となる地域は狭い … 1 点

⑥東部は大陸性気候が出現 … 1 点

⑦（⑥の影響で）冬季に極寒となる地域が広い … 1 点

(2)（完答 2 点）

(3) (7点)

＜都市PとQの比較＞

①都市Q：年中偏西風・暖流の影響を受ける …1点

②(①の結果) 都市Qは緯度の割に温和で、都市Pは都市Qより気温の年較差が大きい

…1点

※都市Pは、都市Qより冬寒冷を指摘しても可。

＜都市PとRの比較＞

③都市R：中緯度高压帯の支配を受ける …1点

④(③の結果) 都市Rは夏に乾燥するが、都市Pは一定の降水がある …1点

※都市Rは、夏乾燥・冬湿潤(冬雨型)であることがわかれば可。

＜都市PとSの比較＞

⑤都市S：(Pより) 隔海度が大きい …1点

⑥(⑤の結果) 都市Pは都市Sより気温の年較差は小さく、降水が多い …2点

※都市Sが、年中少雨で寒暖差の大きい気候であることを指摘しても可。

(4) (4点)

①人口が多いS国では国内需要が大きい …1点

②(①の結果) 生産量が多いが、余剰は乏しい …2点

③S国の約4分の1の人口規模のP国は、そうではない …1点

※S国に比べれば人口は少なく、輸出に回せる余裕があることがわかれば可。

(5) (7点)

①Q国の方が国土面積が広い上、平野・平原の割合も高い …2点

②(①の結果、Q国の方が) 小麦栽培面積が広い …1点

③Q国は年中温和で湿潤な気候が出現 …1点

④夏季に乾燥するR国より土地生産性も高い …1点

⑤Q国は小麦の世界有数の生産国・輸出国となっている …1点

⑥R国は(小麦の) 世界有数の輸入国となっている …1点

設問B (5点) ※下線の引き忘れはいくつあっても(－1)

＜「やませ」について説明＞

※「やませ」の名称の指摘は不要。

①夏季に海から北海道の東部地域に吹く風 …1点

※「オホーツク海高気圧から吹く(湿潤)風」でも可。

②東北日本の太平洋岸を流れる寒流の親潮 …1点

③(①が) 冷却されて低温風となる上、海霧を発生させる …1点

＜「やませ」の影響＞

④低温と日射不足 …1点

⑤(④を背景として) 稲作が困難となる …1点

【2】

解答例

設問 A

- (1) 作物 X - ア
- (2) 作物 X は飼料, 採油, エネルギー生産など用途が多く, 需要の増大が著しい。このため主に主食用の作物 Y よりハイブリッド品種や遺伝子組換え品種の開発が盛んで, 土地生産性の向上が顕著である。(90 字)
- (3) 綿花栽培が不振, 大豆などの栽培が活発となり, 多角化した。(28 字)

設問 B

- (1) 早い時期に, 高度な航海術を持ったマレー系民族が貿易風と海流を利用して東南アジアからマダガスカルに移住した。この際, インド洋を横断して東南アジアから稲作文化も伝播し, 定着した。(87 字)
- (2) エジプト。収穫面積 1 ha 当たりの収量が突出して多いことから, 灌漑による極めて集約的な稲作が行われている国だと推察できる。(59 字)
- (3) 水田面積の拡大のほか, 多収量品種の導入や灌漑網の整備による二期作・三期作の実現などにより土地生産性の向上をはかった。(58 字)

解説

《世界の農業》

本問では, アメリカ合衆国の農牧業の特色と米の生産の特色を取りあげた。頻出事項を中心に作問しているので, 高得点の獲得をめざしてほしい。

設問 A.

図 2-1 の X はトウモロコシ地帯, Y は小麦地帯, Z は綿花地帯を示している。

(1)・(2).

図 2-1 の X 地域 (トウモロコシ地帯) は, トウモロコシと大豆を連作して地力維持をはかるとともに, これらを飼料として豚や肉牛の飼育が盛んに行われる混合農業地帯としての性格を有している。この点に注意すれば, この地域で栽培の盛んな作物 X がトウモロコシか大豆のいずれかであると判断できる。さらに, 新大陸原産の作物とあることに注目すれば, 作物 X がメキシコ高原一帯が原産地とされているトウモロコシと判断できる。また, Y 地域 (小麦地帯) で栽培の盛んな作物 Y は小麦であるが, 中南部では冬小麦, 北部では春小麦の栽培が中心となっていることにも注意したい。

そうすれば, 図 2-2 がアメリカ合衆国におけるトウモロコシと小麦の土地生産性の経年変化を示したもので, 両者の中で 1961 年以降に土地生産性の向上が顕著なものがア, そうではないものがイに該当するとわかるだろう。トウモロコシと小麦のいずれが土地生産性の向上の顕著なものであるかを考えよう。(2)にあげられた「エネルギー」, 「ハイブリッド」という指定語句に注目すれば, これがトウモロコシであると容易に推察できるだろう。トウモロコシは, 飼料, 採油, エネルギー (バイオエタノール) 生産など用途が多岐に渡り, 古くから世界各地の品種を交配して新品種の開発が行われてきた。とくに, 1920 年頃からアメリカ合衆国でハイブリッド (交雑) 品種が開発されて以降, 土地生産性が飛躍的に向上した。さらに, 近年は

遺伝子組換えされたトウモロコシ品種の普及も進んでおり、さらなる土地生産性の向上が実現されている。実際、小麦の収穫面積 1 ha 当たりの収量が世界平均で 3,000kg であるのに対して、トウモロコシの収穫面積 1 ha 当たりの収量は世界平均で 5,215kg となっている（統計年次は 2010 年）。

参考までに付記すると、遺伝子組換え作物の栽培を最初に始めたアメリカ合衆国では、実にトウモロコシの作付面積の 86%、大豆の作付面積の 93% が遺伝子組換え品種で占められている（2010 年、アメリカ合衆国農務省の資料による）。

(3).

図 2-1 の Z 地域（綿花地帯）では、アフリカ大陸からの黒人奴隷労働力を使役していた時代から綿花栽培が行われてきた。しかし、第二次世界大戦後、綿花の連作を続けてきた影響で地力の低下や病虫害の頻発に起因する収量の減少が顕在化してきた。また、発展途上諸国を中心とする新興産地との国際競争も激化してきた。この結果、この地域における綿花栽培が不振となり、近年は大豆の栽培など農業経営の多角化が進行している。

2010 年のアメリカ合衆国の州別綿花生産量を見ると、第 1 位がテキサス州（171.4 万 t）、第 2 位がジョージア州（49.0 万 t）、第 3 位がアーカンソー州（25.6 万 t）、第 4 位がノースカロライナ州（20.7 万 t）、第 5 位がミシシッピ州（18.5 万 t）、第 6 位がカリフォルニア州（18.4%）となっているが、これはこの国における綿花栽培の中心が図 2-1 の Z 地域（南部諸州）から、灌漑網の整備に伴って農業開発が進行してきた西部諸州へシフトしていることを物語っている。設問 B.

米の生産量（2010 年）の上位 20 カ国について、1989～91 年と 1999～2001 年の平均生産量、および 2010 年の生産量と収穫面積 1 ha 当たりの収量を示した表 2-1 に関する出題である。

(1).

米の生産量（2010 年）の上位 20 カ国の多くはアジア諸国であるが、その中にマダガスカル、P、Q のようなアフリカ諸国も含まれている。本問では、このうちマダガスカルで米の生産が盛んに行われている理由を、「インド洋」、「貿易風」という 2 つの指定語句を用いて記述説明することを求めた。

マダガスカルが、「アジアに最も近いアフリカ」と呼ばれることがあることを想起することがポイントである。マダガスカルは、アフリカの中でも極めてアジア的色彩の強い地域となっている。これは、この地域に最初に居住した人々が、東南アジアのカリマンタン島から航海カヌー（アウトリガーカヌー）でインド洋を横断してこの地に移住したマレー=ポリネシア系の人々であったことに起因している。

現在、インドネシア、マレーシア、ブルネイの領土に分割されているカリマンタン島からマダガスカル島に向かうためには、赤道に沿って約 8,300km の航海を行うが必要になる。近代的な科学的技術・知見が存在しなかった時代に、このような長距離を航海して人々が移住することが可能だったのかと疑問を感じた受験生がいたかも知れない。しかし、カリマンタン島からマダガスカル島に向かって航海する際には、途中で赤道無風帯を通過する必要がない上、常に貿易風が追い風となる。また、赤道に沿って西流する南赤道海流に流されていくことになる。このため、当時の東南アジア島嶼部に存在した航海術ならば、これは十分に現実的であった。また、途中カリマンタン島からジャワ海を横断した後、スマトラ島やジャワ島で補給

を行えば、航海はより一層容易なものとなった。

今日では、のちにアフリカ大陸東部から移住してきた人々との間で混血が進行しているものの、このような歴史を背景としてマダガスカル文化はインドネシアとの結びつきを強く有するものとなっている。実際、マダガスカル文化は、水田での稲作、航海カヌーの利用、高床式住居、ヴァリハと呼ばれる竹製のチターの一種の弦楽器の存在など、他のアフリカ諸国に見られるものとは異質なものとなっている。

(2).

表2-1中のPに該当する国の名称を、エジプト、タンザニア、ナイジェリア、マリの中から選択し、その理由とともに解答することが求められている。

P国の稲作が、表2-1に示された収穫面積1ha当たりの収量が9,422kgという突出して高い土地生産性を示していることに注目するのがポイントである。収穫面積1ha当たりの米の収量が日本で6,511kg、アメリカ合衆国で7,538kgとなっていることから考えて、P国では高度な技術を駆使した極めて生産性の高い稲作が行われていると推察できる。

緑の革命による多収量品種の導入が進んでいるにもかかわらず、アジア諸国の多くは収穫面積1ha当たりの収量が3,000～5,000kg程度となっている。この事実から明らかなように、稲作適地となっている場所の多くでは古来行われてきた伝統的農法による稲作が継承されている影響で、高度な技術を駆使した生産性の極めて高い稲作の導入は遅れ気味である。よって、P国は、日本やアメリカ合衆国のように稲作適地とは言えない場所で、高度な技術を駆使して稲作が行われているものと判断する。よって、4カ国（エジプト、タンザニア、ナイジェリア、マリ）のうち、P国には外来河川のナイル川や地下水を利用する高度な灌漑技術によって極めて集約的な稲作が行われているエジプトが該当すると判断する。参考までに述べると、Q国がナイジェリアである。

(3).

表2-1に示されたアジア諸国の中には、バングラデシュ、ベトナム、ミャンマー、タイ、フィリピン、カンボジア、パキスタンなどのように、2010年までの約20年間に米の生産量を大きく増大させた国が散見される。これらの国々では、水田の開墾による稲作面積の拡大のほか、緑の革命による多収量品種の導入や灌漑網の整備による集約的な稲作（二期作・三期作）の実現などによる土地生産性の向上がはかられた結果、米の生産量が大きく増大することになった。

【配点の目安】（配点 33 点）

設問 A

- (1) (2 点)
- (2) (8 点) ※下線の引き忘れはいくつあっても (－1)
- ①作物 X は、飼料、採油、エネルギー生産など用途が多い … 2 点
 - ②(①により) 需要の増大が著しい … 2 点
 - ③(主に主食用の作物 Y よりも)
ハイブリッド品種の開発が盛ん、もしくは、遺伝子組換え品種の開発が盛ん … 2 点
 - ④土地生産性の向上が顕著 … 2 点
- (3) (3 点)
- ①綿花栽培が不振 … 1 点
 - ②大豆などの栽培が活発となり、多角化した … 2 点

設問 B

- (1) (8 点)
- ①(早い時期に、高度な航海術を持った) マレー系民族 … 2 点
 - ②貿易風と海流を利用 … 2 点
 - ③東南アジアからマダガスカルに移住した … 1 点
 - ④インド洋を横断した … 1 点
 - ⑤東南アジアから稲作文化も伝播した … 2 点
- (2) (6 点)
- ①国名：エジプト … 2 点
 - ②収穫面積 1 ha 当たりの収量が突出して多い … 2 点
 - ③(②より) 灌漑による極めて集約的な稲作が行われている国だと推察できる … 2 点
- (3) (6 点)
- ①水田面積の拡大 … 2 点
 - ②①以外の方法を 2 つ以上挙げる … 1 点 × 2 = 2 点まで
 - ・多収量品種の導入
 - ・灌漑網の整備
 - ※「緑の革命の実施」を指摘しても可
 - ・二期作・三期作の実現
 - ③(①・②により) 土地生産性の向上をはかった … 2 点

【3】

解答例

設問 A

- (1) アーアメリカ合衆国、イーブラジル、ウーイギリス、エーマレーシア
- (2) ア国には日本企業が多数進出しているが、ウ国にはア国に比べて多くない。このため、民間企業関係者の割合に差が生じ、その影響で留学生・研究者・教師の割合が相対的に変化している。(85 字)
- (3) 日系移民とその子孫が在留邦人の中心となっているため、1 世の高齢化や 2 世以降の世代における現地国籍の取得が影響している。(59 字)
- (4) 常夏の気候、治安の良さ、英語の普及といった良好な生活環境や、日本よりも生活コストが低いことに惹かれたシルバール層である。(59 字)

設問 B

- (1) 近隣に輸出産業や大市場の発達する上海浦東空港や深圳港などと、中継貿易拠点のドバイ空港やシンガポール港などに区分できる。(60 字)
- (2) 運用時間の制約やコストの高さなどが影響し、近隣諸国の空港・港湾との国際競争で不利である。このため、航空貨物やコンテナの取扱における東アジアのハブ空港・港湾の地位を構築できていない。(90 字)

設問 C

政府の先端技術産業優遇・振興政策、欧米諸国との時差、理数系と英語の能力に長けた労働力を安価・豊富に確保可能なことなどが通信インフラの整備・発達と相乗して、コンピュータソフト産業を核とする先端技術産業の国際分業拠点を創出した。(112 字)

解説

《交通・通信の発達》

交通・通信の発達によって、人々の生活、空港・港湾の整備状況、産業の空間的な配置などが大きく変化した事例を取りあげた。

設問 A.

4 カ国（アメリカ合衆国、イギリス、ブラジル、マレーシア）の在留邦人（日本国籍を有する 3 カ月以上の海外長期滞在者および永住者（二重国籍を含む））の変化と特色を取り上げた。

(1).

アメリカ合衆国、イギリス、ブラジル、マレーシアにおける在留邦人について、1990、2000、2011 の各年における在留邦人数と 2011 年の永住者の数を示した図 3 - 1 中の、ア～エに該当する国名の判断を求めた。

国際化の進展に伴って海外在留邦人が増加傾向にあるという一般的傾向に反して、イ国の在留邦人は 1990、2000、2011 年と減少傾向にある。この点に注目すれば、これが 4 カ国の中で日本企業の進出等の動きが低調なブラジルと判断できる。残ったア・ウ・エの 3 カ国は、アメリカ合衆国、イギリス、マレーシアのいずれかであるが、最も多くの在留邦人が暮らすア国がアメリカ合衆国であることは言うまでもない。ウ・エ両国がイギリス、マレーシアのいずれであるかは、(4)の設問がヒントとなって、ウ国がイギリス、エ国がマレーシアとなる。

(2).

ア国（アメリカ合衆国）には日本企業が多数進出しており、その影響で民間企業関係者の割合が高くなる一方で、相対的に留学生・研究者・教師の割合が低くなっている。

しかし、ウ国（イギリス）には、ア国において見られるほど多くの日本企業が進出しているわけではない。このため、ウ国では民間企業関係者の割合が相対的に低くなり、その影響で留学生・研究者・教師の割合が相対的に高くなっている。

(3).

図3-1に示されたイ国（ブラジル）に在留する邦人の多くは永住者で、この永住者は日系移民とその子孫である。日系移民の1世の世代では、高齢化が進行している。また、現地で出生した2世以降の世代では、ブラジル国籍の取得が進んでいる。これらが影響して、ブラジルの在留邦人数は1990、2000、2011年と減少傾向を示すことになっている。

(4).

エ国（マレーシア）は、マレーシア・マイセカンドホームプログラム（通称：MM2H）という海外移住者を積極的に招致する政策を実施している。この政策も影響して、定年退職を迎えたシルバー層中心に、マレーシアで老後の生活を送ることを選択する人々が増加している。

マレーシアの魅力としては、日本に比べて不動産を初め物価が安いこと、気候が快適であること、治安がよいこと、多民族国家であり英語が通じること、医療制度が整っていることなどが挙げられる。

設問B

(1).

近隣に輸出産業や大市場の発達する上海浦東空港や深圳港などが、表3-1に示された国際航空貨物取扱量で世界の上位となっている空港（2011年）や表3-2に示されたコンテナ取扱量で世界の上位となっている港湾（2012年）に名を連ねていることは不思議ではないだろう。しかし、近隣に輸出産業や大市場の発達が見られないドバイ空港やシンガポール港などが含まれているのはなぜだろうか。本問は、この点に注目することがポイントとなる。もちろん、解答例に示したようにドバイ空港やシンガポール港が中継貿易拠点となっていることを指摘すればよい。今日、アラブ首長国連邦のドバイ、東南アジアのシンガポール以外に、オランダのロッテルダムがヨーロッパ最大の貿易港となっていることに注意したい。

また、東西冷戦時代に東アジアとヨーロッパ・北アメリカ東部を結ぶ幹線航空路線の中継地として繁栄していたアメリカ合衆国アラスカ州のアンカレッジが、北アメリカ、アジア、ヨーロッパの主要都市に3～9時間で到達できる場所に位置していること、貨物基地が必要とする広大な用地を安価に取得可能なこと、鉄道交通や港湾施設へのアクセスにも優れていること、旅客便の利用が極めて少ないために24時間体制で貨物便優先の離発着が可能であることなどを背景として、今日、世界屈指の国際航空貨物取扱空港となっていることに注意したい。

(2).

成田空港は、1978年の開港以来、東アジア諸国と北米諸国を結ぶ航空便の多くが発着するハブ空港として機能してきた。しかし、拡張・整備が進まないことで乗り入れできない航空会社が増加したこと、騒音問題対策として24時間運用ができないこと、都心へのアクセスの便がよいこと、国際空港である成田空港と国内線の拠点である羽田空港との乗り換えが不便

であること、そして、近隣諸国にこれらの問題を有さない香港国際空港（1998 年開港）、ソウルの仁川国際空港（2001 年開港）、上海浦東国際空港（1999 年開港）などが次々と開港したことなどを背景として、近年、成田空港のハブ空港としての地位は低下傾向にある。また、表 3－2 に示されたコンテナ取扱量で世界の上位となっている港湾（2012 年）に、横浜港や神戸港などの日本の港湾が含まれていない。これも、成田空港と同様の理由によるものである。

本問では解答例に示したように、日本の空港・港湾が運用時間の制約やコストの高さなどの影響で近隣諸国の空港・港湾との国際競争で不利な状況にあること、そして、そのために航空貨物やコンテナの取扱における東アジアのハブ空港・港湾の地位を構築できていないことを指摘すればよい。

設問 C

通信インフラの整備・発達によって産業の空間的な配置の様子が変化した事例として知られる、インドにおける先端技術産業の発展と集積について説明することを求めた。南インドのカルナータカ州の州都で、デカン高原南部に位置しているバンガロールが、近年「インドのシリコンヴァレー」と称されるようになったことを想起して記述・説明すればよい。

インドの独立後、バンガロールには国営の重工業、なかでも軍需産業や研究施設が集中的に配置された。これらの産業が情報技術に熱心である上、この街には優れた高等教育機関が集中しており、ここで育成された人材がアメリカ合衆国のシリコンヴァレーで活躍したのちに再びこの街に戻って数多くのベンチャー企業を設立した。これらがインド政府や州政府のとった経済自由化政策やコンピュータ・IT 産業優遇政策、欧米諸国との時差、英語能力に優れた豊富な低賃金労働力の存在などと相まって、バンガロールを「インドのシリコンヴァレー」と称されるように、この国における IT 産業の中心地としたのである。

また、インドと欧米諸国との間に時差があったことも有利に働いた。因みに、インドとアメリカ合衆国西海岸の時差は 13 時間半程度である。

【配点の目安】（配点 34 点）

設問 A

(1) （完答 2 点）

(2) （6 点）

① ア国には日本企業が多数進出している … 2 点

② ウ国には日本企業は（ア国に比べて）多くない（＝少ない） … 1 点

③ （①・②のため）民間企業関係者の割合に差が生じた … 2 点

④ （③の影響で）留学生・研究者・教師の割合が相対的に変化している … 1 点

(3) （4 点）

① 日系移民とその子孫が在留邦人の中心 … 2 点

② （①の結果として）

1 世の高齢化が影響している … 1 点

2 世以降の世代における現地国籍の取得が影響している … 1 点

(4) （4 点）※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

① 対象：シルバー層 … 1 点

② ①が惹かれた理由として 3 つ以上 … 1 点 × 3 = 3 点まで

- ・ 常夏の気候（温暖な気候）
- ・ 治安がよい
- ・ 英語の普及
- ・ 良好な生活環境
- ・ 日本よりも生活コストが低い（＝不動産が安い，物価が安い）
- ・ 医療制度が充実

設問 B

(1) （4 点）

① 近隣に輸出産業や大市場の発達する空港・港湾 … 1 点

② ①の例を空港名・港湾名 1 つずつ挙げる … 1 点

空港：上海浦東空港 港湾：深圳港など

③ 中継貿易拠点 … 1 点

④ ③の例を空港名・港湾名 1 つずつ挙げる … 1 点

空港：ドバイ空港 港湾：シンガポール港など

(2) （6 点）

<読み取れる課題>

① 東アジアのハブ空港・港湾の地位を構築できていない … 2 点

<①の背景>

② 運用時間の制約，もしくはコストの高さ … 2 点

③ 近隣諸国の空港・港湾との国際競争で不利 … 2 点

設問C （8点）※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

①政府の先端技術産業優遇・振興政策 …2点

②欧米諸国との時差 …1点

③理数系と英語の能力に長けた労働力を安価・豊富に確保可能 …2点

※優秀な労働力の確保を指摘していれば可。

④通信インフラの整備・発達 …1点

⑤コンピュータソフト産業を核とする先端技術産業の国際分業拠点を創出した …2点



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--